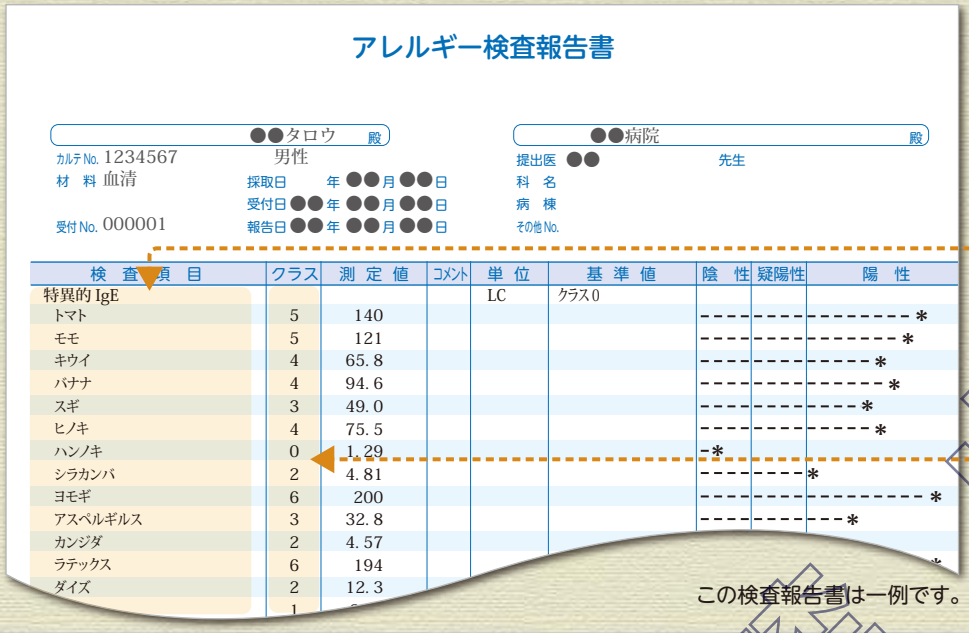
アレルギー検査結果について

監修：東京アレルギー・呼吸器疾患研究所 所長　渡邉 直人 先生

検査結果の見方



アレルギー検査報告書

●●タロウ　殿　　●●病院　殿

カルテNo. 1234567　男性　　提出医 ●●　先生

材　料 血清　採取日　年●●月●●日　科　名

受付日●●年●●月●●日　病　棟

受付No. 000001　報告日●●年●●月●●日　その他No.

検査項目	クラス	測定値	コメント	単位	基準値	陰性	疑陽性	陽性
特異的 IgE				LC	クラス0			
トマト	5	140						*
モモ	5	121						*
キウイ	4	65.8						*
バナナ	4	94.6						*
スギ	3	49.0						*
ヒノキ	4	75.5						*
ハンノキ	0	1.29				*		
シラカンバ	2	4.81					*	
ヨモギ	6	200						*
アスペルギルス	3	32.8						*
カンジダ	2	4.57						
ラテックス	6	194						*
ダイズ	2	12.3						

今回調べたアレルギーの原因物質の名称です

測定値をもとに、7段階(0～6)にクラスを分けています

この検査報告書は一例です。

今回の結果からわかること

アレルギーの原因となる物質を「アレルゲン」といい、私たちの身のまわりには、食物、花粉、ダニなどの多くのアレルゲンが存在します。これらアレルゲンが体の中に入ると異物とみなして排除しようとする免疫機能が働き、それぞれのアレルゲンに対して固有の「IgE抗体」(以下、特異的IgE抗体)という物質が作られます。この状態を感作と言います。さらに、特異的IgE抗体は、体のある特定の細胞(マスト細胞※1、好塩基球)に結合し、前回と同じアレルゲンが再び体内に侵入すると、細胞に結合した特異的IgE抗体がそのアレルゲンを捕まえます。すると細胞にアレルゲン侵入の情報が伝わり、そのアレルゲンを排除すべく、マスト細胞からヒスタミンなどの化学伝達物質が放出され、アレルギー症状を引き起こします。同様に、白血球の一種である好塩基球もヒスタミンなどを放出し、アレルギー反応に関与しています。

今回の検査では、血液中の「特異的IgE抗体」の有無を測定することにより、感作の状態とアレルギー症状を引き起こしている可能性のあるアレルゲンを知ることができます。

■ 下表は、本検査のクラスに関する解釈です。

判　定	クラス	測定値(ルミカウント)	解　釈
陰　性	0	0～1.39	血液中に特異的IgE抗体が存在していない、または検出限界以下の微量の抗体が存在している可能性があります。
疑陽性	1	1.40～2.77	微量ながら、特異的IgE抗体が存在している可能性があります。
陽　性	2	2.78～13.4	血液中に特異的IgE抗体が存在しています。クラスが上がるにつれて、アレルギーを発症する可能性が高くなったり、症状が重くなったりする場合があります。
	3	13.5～58.0	
	4	58.1～119	
	5	120～159	
	6	160以上	

■ 下表は、クラス判定と症状が一致しない場合の解釈です。

検査の特性上、特異的IgE抗体陽性（＝感作されていることを示す）とアレルギー症状が必ずしも一致しないことがあります。

判　定	症　状	説　明
陰　性	有	今回の検査では検出できなかった微量の特異的IgE抗体が存在している可能性があり、判定が陰性でも症状を示すことがあります。 また、今回の測定項目以外の特異的IgE抗体が存在している可能性や特異的IgE抗体以外の物質がアレルギーの原因になっている可能性が考えられます。
陽　性	無	アレルギーは身体の中で特異的IgE抗体とマスト細胞※1が結合した場合に発症しますので、特異的IgE抗体が血液中に存在していても、人によってはアレルギーを発症しないことがあります。

※1 マスト細胞：アレルギー反応に関与する造血幹細胞に由来する血球系細胞（免疫細胞）で、体中の血管周囲、特に皮膚や皮下組織、肺、消化管、肝臓などに広く存在しています。アレルギーには体内の多くの物質が複雑に関与していますが、マスト細胞や好塩基球と特異的IgE抗体の結合が一連のアレルギー反応の開始となります。

複製禁止

キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社

検査結果が陽性だった場合の対策

吸入アレルゲン

「アレルゲンを吸い込まない」ことが、最も重要な対処法です。

室内の掃除、換気、空調、外出時のマスク・メガネや帽子の装着でアレルゲンの吸入や付着を回避しましょう。

食物アレルゲン

食物アレルギー治療の基本は、「原因食物除去」です。※2

検査が陽性であっても陰性であっても、病歴上安全に摂取できている食物は除去する必要はなく、症状が誘発されている食物は除去する必要があります。すべての除去・摂取などの対応は「症状に応じて」行うべきであり、検査所見はあくまでも参考程度にとどめ症状がある場合は、アレルギー専門医に相談しましょう。※3

ワンポイント

食物アレルゲンの感作は必ずしもその食物を食べることにより起こるわけではありません。

最も多いのが、花粉アレルギーが原因で発症する食物アレルギー（花粉・食物アレルギー症候群：PFAS）です。花粉アレルギーの原因アレルゲンと構造が類似したアレルゲンが果物・野菜に存在し、花粉のアレルゲンで花粉症を発症した患者さんの一部が、同時に野菜・果物の中の花粉アレルゲン類似の構造をもった物質にも特異的IgE抗体が交差反応するようになり、食物アレルギーを発症することがあります。これは口腔アレルギー症候群（OAS）※4の一種に分類されます。

今回の検査は、吸入抗原と食物抗原の特異的IgE抗体の有無を同時に測定できる検査ですので、下記の例のような陽性パターンにより、PFASを疑う参考データが得られます。症状がある場合はアレルギー専門医にご相談ください。

花　粉	花粉と関連のある植物
スギ・ヒノキ	トマト
ハンノキ・シラカンバ	モモ、ダイズ　等
カモガヤ・オオアワガエリ	キウイ　等

症　状	唇・口・喉などが「かゆい」「腫れる」「皮膚症状」「気管支喘息様症状」など

※2: 食物アレルギーの診療の手引き2023（食物アレルギー研究会）
※3: 患者さんに接する施設の方々のためのアレルギー疾患の手引き 2022年改訂版（日本アレルギー学会）
※4: 特定の果物や野菜などを食べた後に、口や喉などの口腔粘膜にアレルギー反応が起きることがあり、特に原因が花粉の時にはPFASと呼ばれます。

詳しくは　アレルギーを正しく知ろう!!　で検索！

Canon キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社
〒104-6004 東京都中央区晴海1-8-10　TEL：03-6219-7608

PL-24-012（MA-01DEB）